

出穂は平年より早まる見込み！穂肥診断は確実に！

1 出穂期と穂肥時期のめやす

- 7月10日現在、出穂期は平年より2～3日早い見込みで、今後の気温次第でさらに早まる可能性もあります。
- 穂肥に当たっては必ずほ場で幼穂長を確認し、遅れずに施用しましょう。

品 種	出穂日 めやす	1回目穂肥		2回目穂肥		2回合計窒素量 (kg/10a)
		時 期	出穂前日数	時 期	出穂前日数	
こがねもち	7/27頃	7/9～7/12頃	18～15	7/17頃	10	1～3
コシヒカリ (平坦地) (中山間地)	7/31頃	7/13～7/16頃	18～15	7/21頃	10	1～3
	8/6頃	7/19～7/22頃		7/27頃		
にじのきらめき	8/3頃	7/4～7/9頃	30～25	7/20頃	14	2～5
みずほの輝き	8/7頃	7/13頃	25	7/24頃	14	3
新之助	8/4頃	7/14～7/17頃	21～18	7/23～7/25頃	12～10	0.5～3

※ 5月10～15日頃に移植した稚苗、5月15～20日頃に移植した中苗を想定

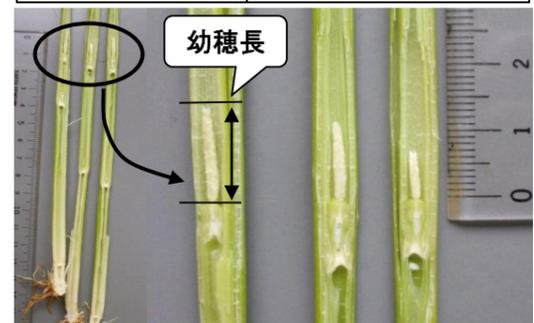
2 コシヒカリの穂肥診断

- 今後も高温が予想されています。2回目穂肥は後期栄養維持のため、確実に施用してください。
- 全量基肥肥料に含まれる緩効性肥料は土壌水分が不足すると窒素成分が溶出しにくくなるので、土壌水分の保持に努めてください。

(1) 1回目穂肥の診断めやす(出穂24日前頃)

草丈	葉色(単葉)	SPAD値 34～32 葉色板 4.2～3.9	SPAD値 35以上 葉色板 4.4以上
	70～75cm以内	時期・量とも基準どおり施用 →出穂18日前：1.0kg/10a	時期を遅らせて施用 →出穂15日前：1.0kg/10a
75～80cm以内	施用量を減らす →出穂18日前：0.5～0.8kg/10a	時期を遅らせ、施用量を減らす →出穂15日前：0.5～0.8kg/10a	
80cm以上	施用できない	施用できない	

幼穂長 (cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2～0.4	20日
0.5～1.0	18日
4～6	12日
8～11	10日



【幼穂長と出穂前日数のめやす】

(2) 2回目穂肥の診断めやす(出穂12日前頃)

出穂14～12日前の葉色(単葉)	2回目の穂肥量(10a当たり)
SPAD値 32～34 (葉色板 4.2～4.5)	基準量どおり施用 (1.0～1.5kg)
SPAD値 35以上 (葉色板 4.6以上)	施用量を減らす (0.7～1.0kg未滿)

(3) 出穂期10日前以降の穂肥(3回目)の対応

2回目穂肥後も高温が予想され、出穂までの葉色低下が懸念される場合は、以下を参考に3回目を検討してください。

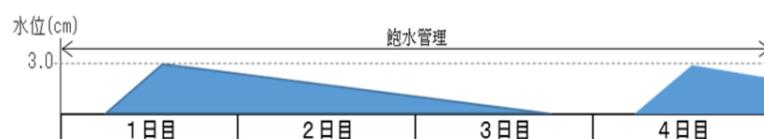
施肥体系(基肥+穂肥)	判断時期	葉色のめやす	施用時期	施用窒素量(kg/10a)	施用する肥料
慣行栽培(化学肥料体系)	出穂期3日前の葉色 (注)	SPAD値 31以下 葉色板 4.0以下	出穂期3日前	1.0kg/10aを上限	化学肥料
特別栽培(減化学肥料体系)	出穂期6日前の葉色 (注)	SPAD値 33以下 葉色板 4.5以下	出穂期3日前	1.0kg/10a程度	有機50%肥料

(注) 単葉を測定したときの数値

3 今後の管理

(1) 水管理

- 減数分裂期(出穂12日前)から出穂・開花期にかけては水を最も必要とする時期のため、田面が乾かないように飽水管理を徹底してください。
- 異常高温・フェーン時には速やかに湛水し、急激な蒸散による障害の発生防止に努めてください。ただし根腐れ防止のため、長期間の湛水は避けてください。



【飽水管理のイメージ】



【飽水管理中の田面】

(2) 極早生品種の収穫準備

- 今後も高温が予想されていることから、平坦地の極早生品種では収穫開始が例年よりも早まるものと予想されます。
- ほ場ごとの出穂期に留意するとともに、今後、JAや農業普及指導センターがホームページで公開する出穂後積算気温表を参考に、早めの収穫計画を立ててください。

品種名	出穂期	出穂後の積算温	収穫期のめやす
五百万石	7月19日頃	975℃	8月24日頃～
新潟次郎、つきあかり	7月16日頃～	1,000℃	8月24日頃～

※ 5月10日頃に移植した場合を想定